様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　(共通)

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：６２５０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０３４８４

研究課題名（和文）中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化

研究課題名（英文）Development of research resources on the history of exchanges between medieval Japan and East Asia

研究代表者
荒木　和憲（ARAKI, KAZUNORI）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：５０５１６２７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,400,000円

研究成果の概要（和文）：分権的な日本中世社会において分散的に生成された〈東アジア交流史関係史料〉の集成を目的とし、概ね960年から1592年に至るまでの史料15,742件を検出した。それをもとに、データベースを作成・公開した。個別の史料に対し、基本データ（年月日、作成・発信者、受信者、史料名）を付与することで、編年での配列等を可能とした。加えて、本文テキスト、および史料の生成・授受の主体・地域に関するメタデータを付与することで、ユーザーが求める史料が検索でヒットする確率を高めた。一方、冊子版・PDF版の史料集『中世日本 東アジア交流史関係史料集成（稿）』（全1,780頁）を作成・公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中世日本の東アジア交流史に関しては、精緻な個別研究が蓄積されてきたが、それと比例して総合・比較研究の必要性も増している。それを実証的なレベルで深めるためには〈関係史料〉の網羅的な把握が必要不可欠である。しかし、分権的な中世社会で分散的に生成された〈関係史料〉の全容を把握するのは困難な作業であり、従来は部分的に史料集成の試みがなされてきた。これに対して本研究では、〈関係史料〉の全容解明をめざして網羅的な検出作業を試みた。データベースと史料集（冊子版・PDF版）を作成・公開し、当該分野の研究者だけでなく、関連諸分野の研究者の〈関係史料〉へのアクセスを容易とした。人文学の諸分野に貢献する成果である。

研究成果の概要（英文）：For the purpose of collecting "historical materials related to East Asian exchange history" generated in a decentralized manner in the decentralized Japanese medieval society, 15,742 materials from 960 to 1592 were detected. Based on that, we created and published a database. By adding basic data (date, creator, recipient, material name) to individual materials, it is possible to arrange them by chronology. In addition, by adding the full text and metadata, the probability that the historical materials requested by the user will be hit in the search has been increased. On the other hand, a print and PDF version of the historical materials collection were created and released.

研究分野：日本中世史・東アジア交流史

キーワード：日本中世史　東アジア交流史　史料研究　研究資源　メタデータ　ファセット　日本古代史　東アジア史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

1980 年代以降、前近代の東アジア交流史研究が活発であるが、それは「日本人の日本史研究者」による「前近代日本の対外交流史研究」として進められてきた面が大きい。しかし、近年では「日本」という枠組みや既存の学問分野を所与の前提としない「海域アジア史」研究の潮流も盛んであり、日本史・中国史・朝鮮史・琉球史・東南アジア史を専門とする国内外の研究者たちが、国家や学問分野を越境するかたちで東アジア交流史研究を進める段階となっている。こうした研究動向は、前近代の東アジア交流史に対して多方面からのアプローチが可能であることを示すものであり、逆にいえば、もはや日本史学の方法論だけでは成立しないことを如実に示すものである。

前近代東アジア交流史研究の今後の方向性として、学際的な共同研究を進めていくことは重要であるが、その一方で学際的研究に対応できるよう日本史学の内部での取り組みを模索することも重要である。ひとくちに中世日本の東アジア交流史といっても、「日宋交流史」「日元交流史」「日明交流史」、「日麗交流史」「日朝交流史」、「日琉交流史」など、ジャンルが多岐にわたっており、各ジャンルでの研究の深化と背中合わせで、その個別化・細分化が進んでいる。

精緻な個別研究の蓄積は重要であるが、中世日本の東アジア交流史を俯瞰するためには、ジャンルを越えた総合的研究やジャンル間の比較研究も必要である。そうした総合・比較研究は抽象的なレベルだけでなく、実証的なレベルでも深めなければならない。しかし、分権的な中世社会では、自律的な社会集団が個々に東アジア交流に関与したため、その関係史料は分散的に生成・保存された。それゆえ、関係史料の全容は明らかでなく、しかも研究の個別化・細分化がその把握をより難しくしている。したがって、中世日本の〈東アジア交流史関係史料〉を網羅的に収集・分析し、史料論的な側面から当該分野の研究の総合化を図るとともに、その成果をあらゆる分野の研究者が共有することが必要不可欠であると考えるに至った。

２．研究の目的

中国・朝鮮の正史・実録（『宋史』『元史』『明史』『高麗史』、『明実録』『朝鮮王朝実録』）のなかに、中世日本と中国・朝鮮との交流にかかわる記事が多く含まれていることは周知の事実である。こうした正史・実録は記事が膨大ではあるが、総体は掴めるため、これまで国内外で関係記事を抄出する試みがなされてきた。

これに対して、中世日本の〈東アジア交流史関係史料〉は、中世社会の分権的な構造を反映し、きわめて断片的かつ分散的であるため、その集成は部分的な試みとして行われてきた。中世前期に関しては、中世海事史料研究会編『鎌倉時代水界史料目録』（東京堂出版、2003 年）、張東翼『日本古中世高麗資料研究』（ソウル大学出版部、2004 年）、『《元寇》関係史料集（稿）』Ⅰ・Ⅱ（基盤研究（S)「長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明」研究成果報告書、代表池田榮史、2010 年）、榎本渉『南宋・元代日中渡航僧史料集成』（勉誠出版、2013 年）など、比較的に集成作業が進んでいる。一方、中世後期に関しては、湯谷稔『日明勘合貿易史料』（国書刊行会、1983 年）、田中健夫編『善隣国宝記・新訂続善隣国宝記』（集英社、1995 年）、キム・ギソプほか編『日本古中世文献のなかの韓日関係史料集成』（ヘアン、2001 年）があるが、〈関係史料〉の集成作業は遅れている。

したがって、本研究は、中世全般におよぶ〈東アジア交流史関係史料〉を網羅的に検出し、データベースと史料集を作成・公開することで、幅広い分野の研究者が容易に史料にアクセスできる環境を整備することを目的とする。

３．研究の方法

本研究において、中世日本の〈東アジア交流史関係史料〉として調査・収集の対象とするのは、中世日本社会で生成・保存された文書・記録・典籍・銘文類である。研究代表者・分担者間で作業を分担し、既刊の刊本をベースとして〈関係史料〉の検出、基本データの作成、本文テキストの入力を進める。その成果を代表者が定期的に集約・点検し、データベース用のエクセルファイル、ならびに史料集（冊子媒体の研究成果報告書）用の原稿データを蓄積する。データベース検索システムは初年度の平成 28 年度内に構築し、試験的な運用・公開を図る。平成 29 年度以降は、随時、成果をデータベース上で公開する。最終年度の平成 33 年度（令和 2 年度）に『中世日本東アジア交流史関係史料集成（稿）』を作成・配付する。

４．研究成果

東アジア交流史の展開を考慮し、概ね 960 年（宋の建国）から 1592 年（「文禄の役」）に至る

までの〈東アジア交流史関係史料〉15,742件を検出した。史料の種別で分けると、記録類8,449件、文書類3,920件、典籍類2,379件、銘文類993件である。

採録基準について説明しておくと、中国・朝鮮半島・東南アジア・ヨーロッパとの交流を示す史料はもちろん、蝦夷・琉球等との交流を示す史料も採録した。事件史的な史料だけでなく、舶来品とおぼしき品目についても、なるべく採録するよう努めたが、語彙が同じであっても、時代・地域によって意味するところが異なるため、統一的な基準では採録していない。また、舶来品か否か確証がないものも含めている。

史料のカウント方法について説明しておくと、記録類は、同一史料に含まれる〈関係〉の条文を個別に1件としてカウントした。文書類は、文書1通を1件としてカウントした。典籍類は、同一史料に含まれる〈関係〉の記述を任意の範囲で抽出した。それを1件とカウントした場合もあるが、記述内容によっては、数件に分割した場合もある。銘文類は、1点のモノ資料に記された銘文・奥書等を1件としてカウントした。

以上のように、〈関係史料〉の種類は多種多様であるため、採録基準やカウント方法は一定していない。また、膨大に存在する典籍類（特に文学関係）については網羅的な検出作業を行うことができなかった。したがって、上記の件数は、あくまで本研究の成果を数値として示したものにすぎず、種別ごとの史料の多寡には特段の意味がないことを断っておく。

上記15,742件のデータにもとづき、データベース検索システムと史料集を作成・公開した。以下にその概要を述べる。

①データベース検索システム

研究代表者の所属機関である国立歴史民俗博物館の総合情報基盤システム（https://khirin-ld.rekihaku.ac.jp/）上で当該データベースを公開した。同システムには多様なデータベースが格納されているため、ユーザーの利便性を考慮し、当該データベースの検索に特化したインターフェースを別途作成・公開した（https://www.chuseitaigaisi.jp）。

②史料集

史料集（冊子媒体の研究成果報告書）として、『中世日本 東アジア交流史関係史料集成（稿）』全3冊を作成・頒布した。仕様をA4版、2段組、1段あたり35字×32行としたところ、第1冊記録編は614頁、第2冊文書編は644頁、第3冊典籍編・銘文編は522頁となり、総頁数は1,780頁に達した。経費上の都合から印刷部数は100部とし、国内外の研究機関、国内の図書館・博物館等、ならびに当該分野の研究者に配布した。一方、関連諸分野の研究者の利便性を考慮し、PDF版を作成・公開した。①で記載したインターフェース（https://www.chuseitaigaisi.jp）、または研究代表者のresearchmap（https://researchmap.jp/araki-k）を経由することで、随時入手することができる。

上記①と②の利用上の注意点について述べておく。②は、記録類・文書類・典籍類・銘文類という史料の種別ごとに構成したもので、収載史料は史料群ごとに配列している。ある特定の史料群のなかでの個別史料同士の有機的な連関を追うには適しているが、編年史料集ではないため、同一の事象に関する諸史料が分散したかたちで掲載されている。

この弱点を補うのが①である。ここでは上記15,742件のレコードについて、個々の基本データ（年月日、作成・発信者、受信者、史料名）を付与しているため、検索結果を「時間で表示」する機能を使用することで、編年史料集としての一定程度の利用が可能となる。ただし、データベース検索システムにおいては、年未詳の史料を「時間で表示」することができない点を注意しておく必要がある。

①の付加価値としては、本文テキストに加え、史料の種別、生成・授受の主体・地域、関係する異国・異域などのメタデータを付与していることが挙げられる。任意のキーワード（年号・西暦・語句等）による全文検索が可能であることはもちろん、タグ検索も可能としている。以下にメタデータの主な区分を記す。

史料の種別：記録、文書、典籍、銘文
生成・授受の主体：天皇、皇族、公家、寺社、武家、地域
生成・授受の地域（1）：東北、関東、北陸、中部、東海、近畿、山陽、山陰、四国、九州
生成・授受の地域（2）：旧国名、主要都市名（京都、鎌倉、博多等）
異国・異域：宋、元、明、高麗、朝鮮、蝦夷、琉球、東南アジア、ヨーロッパ

以上のメタデータは必ずしも正確性を期したものではなく、検索の利便性を考慮し、便宜的に付与した場合もある。ともあれ、キーワード検索とタグ検索を併用し、検索結果の絞り込みを行うことで、ユーザーが求める史料がヒットする確率が高まるに違いない。

本研究が残した課題は多いが、〈東アジア交流史関係史料〉の集成にむけての基盤を整備することはできたと確信している。今後は後継プロジェクトを実施することを視野に入れ、課題の精査を進めていきたい。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

1．著者名 荒木和憲	4．巻 単行図録
2．論文標題 西福寺の元版大般若経と対馬宗氏	5．発行年 2019年
3．雑誌名 版経東漸	6．最初と最後の頁 61-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 荒木和憲	4．巻 10
2．論文標題 朝鮮陶磁の日本海沿岸地域への流入経路	5．発行年 2020年
3．雑誌名 なじまぁ	6．最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 伊藤幸司	4．巻 217
2．論文標題 アジアに雄飛する大内氏	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴博	6．最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 榎本渉	4．巻 690
2．論文標題 コメント　一一世紀の外交と国際情勢	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 伊藤幸司	４．巻 180
２．論文標題 港町複合体としての中世博多湾と箱崎	５．発行年 2018年
３．雑誌名 九州史学	６．最初と最後の頁 33-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 榎本渉	４．巻 300
２．論文標題 テムルの日本招諭と一山一寧・燕公楠	５．発行年 2018年
３．雑誌名 史学研究	６．最初と最後の頁 30-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 榎本渉	４．巻 213
２．論文標題 東シナ海の航海を護る済州島の羅漢	５．発行年 2019年
３．雑誌名 歴博	６．最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 後藤真	４．巻 974
２．論文標題 「デジタルアーカイブ」とアーカイブズ,そして歴史学を取り巻く現在と未来	５．発行年 2018年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 後藤真	４．巻 848
２．論文標題 日本史研究と人文情報学―10年の変化とこれからの展望―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

１．著者名 荒木和憲	４．巻 37
２．論文標題 中世前期の対馬と貿易陶磁	５．発行年 2017年
３．雑誌名 貿易陶磁研究	６．最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

１．著者名 荒木和憲	４．巻 10
２．論文標題 粉粧粉青沙器の日本への流通経路に関する一試論	５．発行年 2017年
３．雑誌名 海洋文化財（韓国・国立海洋文化財研究所）	６．最初と最後の頁 99-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 伊藤幸司	４．巻 77
２．論文標題 日本における前近代東アジア交流史の現状と課題	５．発行年 2017年
３．雑誌名 民族文化研究（韓国・高麗大学校民族文化研究院）	６．最初と最後の頁 359-380
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

1．著者名 榎本渉	4．巻 9
2．論文標題 宋日・元日間海上航路における高麗の島嶼	5．発行年 2016年
3．雑誌名 海洋文化財	6．最初と最後の頁 72－122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　8件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 榎本渉
2．発表標題 『自他宗唐決疑問』成立の背景とその価値
3．学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 榎本渉
2．発表標題 宋元代中国における日本僧の留学規模
3．学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 荒木和憲
2．発表標題 16世紀後半～17世紀前半の東アジア海域と博多・対馬・朝鮮
3．学会等名 ワークショップ「越境する東アジア」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 後藤　真,天野　真志,渋谷綾子
2．発表標題 総合資料学情報基盤khirinについて
3．学会等名 全国歴史民俗系博物館協議会第７回年次集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 Makoto Goto
2．発表標題 Construction of humanities resource infrastructure in the National Institutes for Humanities,Japan
3．学会等名 3rd International Workshop on the Academic Asset Preservations and Sharing in Southeast Asia (Tentative)（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 後藤　真
2．発表標題 National Museum of Japanese History, Japan Introducing of khirin
3．学会等名 第29回日本資料専門家欧州協会年次大会（EAJRS 2018）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 後藤真,渋谷綾子
2．発表標題 System of Integrated Studies of Cultural and Research Resources “khirin (Knowledgebase of Historical Resources in Institutes)” Constructed by the National Museum of Japanese History and the Current Situations of “Digital Archive” in Japan
3．学会等名 第29回日本資料専門家欧州協会年次大会（EAJRS 2018）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 後藤　真
２．発表標題 総合資料学システム（khirin）の公開と現状
３．学会等名 人文情報ユニット平成30年度第1回研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 後藤　真
２．発表標題 Digital Archives in Japan” and“ khirin (Knowledge base of Historical Resources in Institutes)
３．学会等名 Pacific Neighborhood Consortium（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊藤幸司
２．発表標題 日本における前近代東アジア交流史の現状と課題
３．学会等名 第一届海洋論壇「海洋文明與東亜発展」（於・中国海洋大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 伊藤幸司
２．発表標題 大内氏の菩提寺と東アジア
３．学会等名 日本宗教史懇話会サマーセミナー（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 伊藤幸司
２．発表標題 東アジア交流史史料としての入明記のポテンシャル
３．学会等名 東アジア日本研究者協議会第1回国際学術大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 荒木和憲
２．発表標題 大友宗麟と茶の湯文化
３．学会等名 『戦国大名大友氏の館と権力』第1回共同研究会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 荒木和憲
２．発表標題 中世前期の対馬と貿易陶磁
３．学会等名 第37回日本貿易陶磁研究会研究集会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 荒木和憲
２．発表標題 粉青粉青沙器（粉引）の日本への流入経路に関する一試論
３．学会等名 第3回高興雲岱里粉青沙器国際学術大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計14件

1．著者名 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編（荒木和憲共著）	4．発行年 2020年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 402（302-327）
3．書名 古文書の様式と国際比較（担当箇所：「中世日本の往復外交文書―十五～十六世紀の現存例を中心として―」）	

1．著者名 永原陽子編（榎本渉共著）	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 384（147-170）
3．書名 人々がつなぐ世界史（担当箇所：「中世日本僧の中国留学―一二～一三世紀を中心に―」）	

1．著者名 鹿毛　敏夫、坪根　伸也	4．発行年 2018年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 344
3．書名 戦国大名大友氏の館と権力	

1．著者名 国立歴史民俗博物館	4．発行年 2018年
2．出版社 国立歴史民俗博物館	5．総ページ数 93
3．書名 東アジアの古文書と日本の古文書	

1．著者名	4．発行年
文藝春秋編	2018年
2．出版社 文藝春秋	5．総ページ数 240
3．書名 日本史の新常識	

1．著者名	4．発行年
高橋　典幸、五味　文彦	2019年
2．出版社 筑摩書房	5．総ページ数 272
3．書名 中世史講義	

1．著者名	4．発行年
倉本一宏	2019年
2．出版社 思文閣出版	5．総ページ数 452
3．書名 説話研究を拓く	

1．著者名	4．発行年
Ayako Shibutani, Junko Uchida, Makoto Goto, Masashi Amano, Norio Togiya, Takayuki Ako, Tsutomu Saito, Yoshihiro Okada, Wei Shi, Kosuke Kaneko, and Yuta Hashimoto	2019年
2．出版社 ミシガン大学出版局fulcrum	5．総ページ数 226
3．書名 Integrated Studies of Cultural and Research Resources The National Museum of Japanese History	

１．著者名 後藤 真,橋本雄太,山田太造,中村 覚,北本朝展,天野真志,関野 樹,鈴木卓治,永崎研宣,大河内智之	４．発行年 2019年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 208
３．書名 歴史情報学の教科書　歴史のデータが世界をひらく	

１．著者名 松薗斉・近藤好和編（榎本渉分担執筆）	４．発行年 2017年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 474
３．書名 史料で読み解く日本史1 中世日記の世界	

１．著者名 吉川真司 ・倉本一宏編（榎本渉分担執筆）	４．発行年 2017年
２．出版社 思文閣出版	５．総ページ数 608
３．書名 日本的時空観の形成	

１．著者名 松薗斉・近藤好和編（伊藤幸司分担執筆）	４．発行年 2017年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 474
３．書名 史料で読み解く日本史1 中世日記の世界	

１．著者名 荒木和憲	４．発行年 2017年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 289
３．書名 対馬宗氏の中世史	

１．著者名 洋泉社編集部	４．発行年 2016年
２．出版社 洋泉社	５．総ページ数 239
３．書名 本能寺の変と明智光秀	

〔産業財産権〕

〔その他〕

総合資料学情報基盤システム
https://khirin-ld.rekihaku.ac.jp/
中世日本東アジア交流史関係史料データベース
https://www.chuseitaigaisi.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	伊藤　幸司 (ITO KOJI) (30364128)	九州大学・比較社会文化研究院・教授 (17102)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	榎本　渉 (ENOMOTO WATARU) (60361630)	国際日本文化研究センター・研究部・准教授 (64302)	
研究分担者	須田　牧子 (SUDA MAKIKO) (60431798)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	後藤　真 (GOTO MAKOTO) (90507138)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関